

市長と語ろう地域懇談会 記録

【日時】平成29年10月13日(金)午後6時30分～8時00分
 【会場】西地区コミュニティセンター
 【対象地域】新富町・桂木町・北斗町・島の下・清水山・東・西学田二区
 【出席者】44人 【記録者】北條

担当部	意見・要望などの要旨	回答の要旨
総務部	北海道の交通体系を考えるシンポジウムで出た内容についてもっと知りたい。	<p>【市長】懇談会資料のシンポジウムは、国土交通省関係機関からの助言や鉄道の維持管理・運行などに関する学者でもある名古屋大学の加藤教授が講演した内容を記載している。鉄道は明治から昭和にかけて都市の発展に伴い、特に荷物を運搬する貨物輸送を主力としていたが、戦後の道路網などの発達により、人や物の輸送手段が飛行機や船、バスなどの選択肢が増えたことで公共交通の必要性や、個人が自家用車を所有する現在の状況において、車から鉄道を利用する生活に変えることができるのかということが講演会の中で問われた。また、鉄道を維持するためには相当な費用を必要とし、富良野であればJRに乗らなくても富良野から新得間では毎年約10億円の費用がかかり、維持する費用を地域が負担することができるのかが問われている。こういったことを市町村や地域住民がどこまで実行できるかをみなさんと一緒に考えていかなければならない。市としては、鉄道を存続させるために、今後みなさんの意見を聞きながら維持存続していくための方法を考えていきたい。</p>
総務部	もともと鉄道はまちとまちをつなぐ文化施設であり、国が地域に責任を負わず状況には違和感を覚える。存続させるべきだと思う。	<p>【市長】国鉄の分割民営化により、職員が40万人から20万人体制となり、会社もJR北海道やJR九州などの7つに分かれ株式会社となった。国営から民営化された当初は、設けられた基金の利息を運用することで赤字分を補てんしてきたが、現在の低い利率での利息の運用は困難な状況となったことを踏まえ、地域でできることを考えながら、関係する自治体や団体が意思統一した</p>

<p>総務部</p>	<p>根室線は昔から「乗って守ろう」という形で、市民や商工会議所などが運動を展開してきたが、富良野線も人だけの輸送だけではなく、貨物列車を走らせることはできないだろうか。</p>	<p>中で、国の責任についても訴えていきたいと考えている。JR北海道と富良野市が共同で富良野駅のトイレ改修を実施したが、こういったことも鉄路を残す手段の一つであり、地域の努力を示しながら国に対して働きかけていきたい。</p> <p>【市長】貨物列車は現在、農産物の輸送においては富良野～札幌間で8月から3月末まで運行し、約9万トンを運搬し、JR貨物では約17億円の線路使用料をJR北海道に支払っている。今後、鉄路が維持管理ができない状況になれば、輸送費用が農産物の価格にも影響する可能性がある。富良野線においては、過去に貨物列車を運行していた時期もあったことは記憶しているが、農産物についてはトラック輸送や札幌から苫小牧方面に輸送していることもあり、無くなっていったものと思う。</p>
<p>総務部</p>	<p>JR九州やJR東日本では、高級列車を走らせているが、JR北海道も同じような取り組みをするのであれば、線路が分断されれば難しくなり、単純に会社の損益だけで鉄路を廃止してはいけないと思う。JRを利用したイベントなどを企画しても、JR北海道として企画に対応することができるのだろうか。市民とJR北海道の話し合う場を設け、お願いというよりは強気に訴えても良いのではないだろうか。</p>	<p>【市長】道路状況が良くなったため、今は時間的にも車の方が便利になっており、こういった状況を踏まえJR北海道も利用してもらう努力をする必要があった。また、橋やトンネルがかなり老朽化しており、JR北海道だけで維持管理は難しい状況であることから、北海道が中心となり関係する市町村の意見をまとめながら、国に対して運動を展開していく必要があると考える。みなさんの意見も参考にしながら話をしていきたい。</p>
<p>総務部</p>	<p>鉄道施設の固定資産税は市税として収入があるのか。税を減額する方法もあると思うが。</p>	<p>【企画振興課長】根室線の滝川～富良野間は約3,100万円、富良野～新得間は約2,100万円の固定資産税等の諸税がかかっているとJR北海道から資料提供されている。</p>
<p>総務部</p>	<p>市役所庁舎の改築は、国の支援があることから、ぜひ取り組んで</p>	<p>【副市長】意見として受け止める。</p>

建設水道部	<p>いただきたい。</p> <p>まちなか居住促進事業により、まちなか区域に人口を増やすメリットは。他の場所のアパートにも同じような事業はできないのか。</p>	<p>【建設水道部長】まちなか居住促進事業は、中心街活性化計画の第2次計画のエリアであり、通行量やにぎわいを持たせるもので、居住人口の数値が未達成の状況にある。特に地価も高いエリアなため、家賃も他に比べて高く、居住してもらうための一つの施策であることをご理解いただきたい。</p> <p>【市長】まちなか居住促進事業は第1段階として、国に示されている目標を達成する必要がある。今年の7月より事業を実施しているが、他の地域についても空家対策を含め、今後考えていきたい。</p>
総務部	<p>士幌町の庁舎を見たが、文化会館や消防庁舎など、すべての機関がまとまった建物になっているので、参考にしていきたい。</p>	<p>【副市長】意見として受け止める。</p>
総務部	<p>今回、全市の防災訓練に参加したが、西町第1町内会側から集合場所となる緑峰高校のグラウンドから入ることができなかったので、入口を作ることはできないか。</p>	<p>【市長】高校は北海道の教育財産であるが、災害時の避難場所としての活用方法などを、北海道に話していきたい。また、災害を防ぐために、ヌッカクシ川や富良野川の浚渫などの河川整備を北海道に対して要望していく。</p>